

正信偈稽古和讚  
全

特 72

191

301733-001-4

特72-191

正信偈稽古和讚

M21.3

ABF-0002



正信偈誓自古和讚  
全

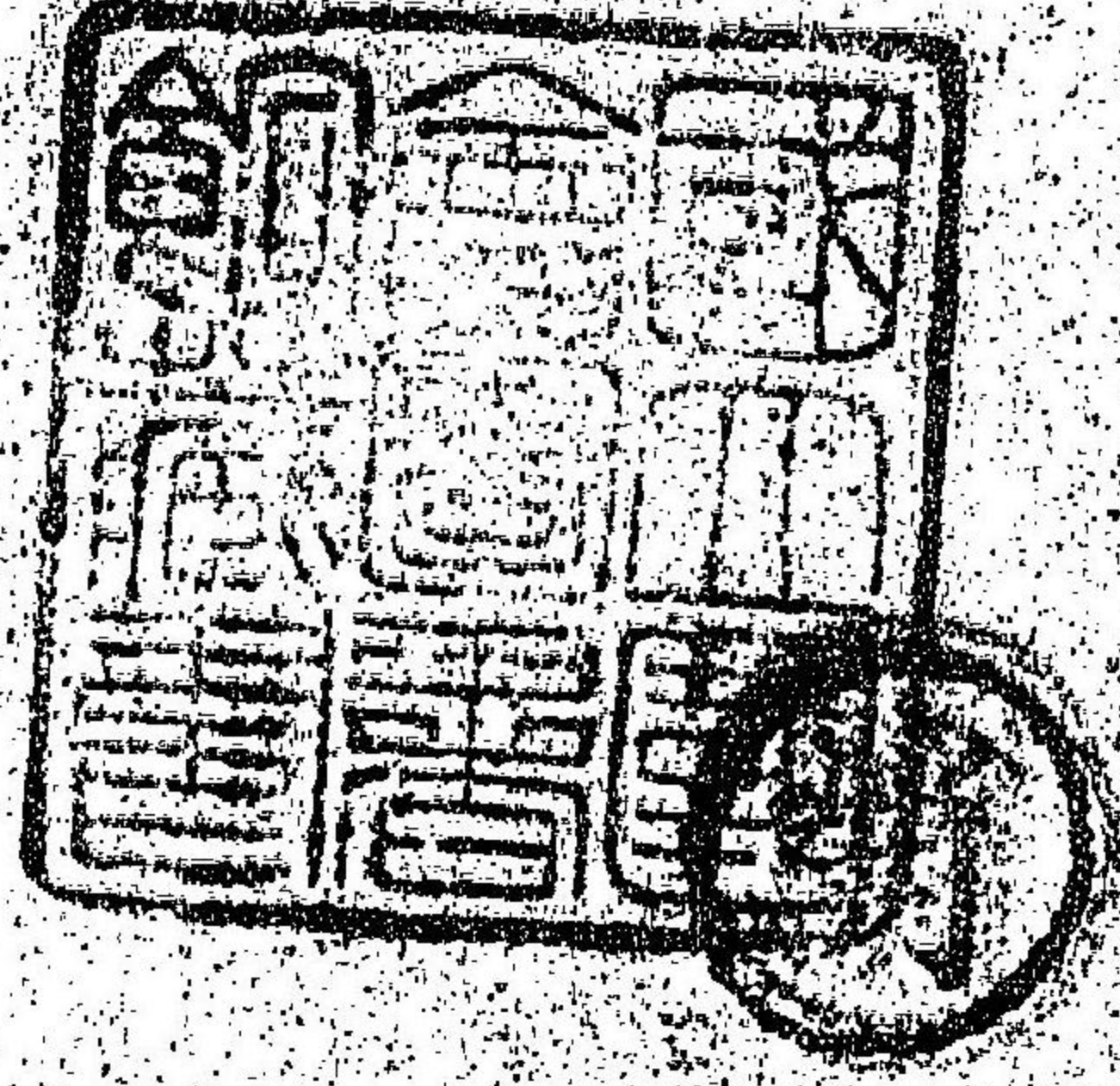
72

191

№ 9592

特 72  
191

在	法	南	歸
世	藏	无	命
自	菩	不	无
在	薩	可	量
王	曰	思	壽
佛	位	議	如
所	時	光	來



52. 6. 2  
~~771126228~~

超チウ發ハツ希キ有ウ大ダイ弘コウ誓セキ建ケン立リツ无ム上ジョウ殊ジュ勝ショウ願ガン國クニ土ツチ人ヒト天テン之ノ善ゼン惡アク觀クワン見ケン諸シュ佛ブツ淨ジユウ土ツチ因イン

五ゴ劫キヤク思シ惟イ之ノ攝セツ受ジュウ重ジュウ誓セキ名メイ聲セイ聞ブン十ジュウ方ホウ普フ放ハツ无ム量リヤウ无ム邊ベン无ム對タイ先セン炎エン王ワウ

清淨歡喜智慧光  
不斷難思无稱光  
超日月先照塵刹  
一切羣生蒙先照

本願名號正定業  
至心信樂願爲因  
成等覺證大涅槃  
必至滅度願成就

應信如來如實言  
五濁惡時羣生海  
唯說彌陀本願海  
如來所以興出世

能發一念喜愛心  
不斷煩惱得涅槃  
凡聖逆謗齊迴入  
如衆水入海一味

攝取心光常照護  
已能雖破无明闇  
貪愛瞋僧之雲霧  
常覆真實信心天

譬如日光先覆雲霧  
雲霧之下明无闇  
獲信見敬大慶喜  
即横超截五惡趣

一切善惡凡夫人  
聞信如來弘誓願  
佛言廣大勝解者  
是人名分隨利華

正五

彌陀佛本願念佛  
邪見憍慢惡衆生  
信樂受持甚以難  
難中之難无過斯



印度西天之論家  
中夏日域之高僧  
顯大聖興世正意  
明如來本誓應機

釋迦如來楞伽山  
爲衆告命南天竺  
龍樹大士出於世  
悉能摧破有牙見

宜說大乘无上法  
證歡喜地生安樂  
顯示難行陸路苦  
信樂易行水道樂

憶念弥陀佛本願  
自然即時人必定  
唯能常稱如來號  
應報大悲弘誓恩

天親菩薩造論說  
歸命无身光如來  
依修多羅顯真實  
光闡橫超大誓願

廣由本願力廻向  
爲度羣生彰一心  
歸人功德大寶海  
必獲人大會衆數

得至蓮華藏世  
即證真如法性身  
遊煩惱林現神通  
人生死菌示應化

本師曇鸞梁天子  
常向鸞處菩薩禮  
三藏流支授淨教  
焚燒仙經歸樂邦

天親菩薩論註解  
報土曰果顯誓願  
往還廻向由他力  
正定之曰唯信心

惑染凡夫信心發  
證知生死即涅槃  
必至无量光明土  
諸有衆生皆普化

道 縛 決 聖 道 難 證  
唯 明 淨 土 可 通 人  
萬 善 自 力 敗 勤 修  
圓 滿 德 號 勸 專 稱

三 不 三 信 誨 慇 懃  
像 未 法 滅 同 悲 引  
一 生 造 惡 值 弘 誓  
至 安 養 界 證 妙 果

善導獨明佛正意  
矜哀定散與逆惡  
光明名號顯曰緣  
闍入本願大智海

行者正受金剛心  
慶喜一念相應後  
與韋提等獲三忍  
卽證法性之常樂

報專徧源  
化雜歸信  
二執安廣  
土心養開  
正判勸一  
辨淺一  
立深切代  
教

正十三

極重惡人唯稱佛  
我亦在彼攝取中  
煩惱彰眼雖不見  
大悲无倦常照我



本師源空明佛教  
憐愍善惡凡夫人  
真宗教證興片洲  
選擇本願弘惡世

還來生死輪轉家  
決以疑情爲所止  
速人寂靜无爲樂  
必以信心爲能人

弘經大士宗師等  
拯濟无边極濁惡  
道俗時衆共同心  
唯可信斯高僧說

南无阿弥陀佛  
南无阿弥陀佛  
南无阿弥陀佛  
南无阿弥陀佛

一 弥陀成佛のこのかた  
 いまふ十劫とへま入り  
 法身の光輪きんもあく  
 下世の盲冥はてらきまら

南无阿弥陀仏  
 南无阿弥陀仏  
 南无阿弥陀仏  
 南无阿弥陀仏  
 南无阿弥陀仏



南	南	南	南
无	无	无	无
阿	阿	阿	阿
引	弥	弥	弥
	陀	陀	陀
	三	三	三
	仏	仏	仏

五十八

解脱げだつの光輪くわんきいもなり  
 光觸くわんかふるもののみち  
 有あ无むとそなるとのびまふ  
 上うへ平等びやうどう覺かくよ歸命きめいせよ

南<sup>ニ</sup>南<sup>ニ</sup>南<sup>ニ</sup>南<sup>ニ</sup>南<sup>ニ</sup>  
 无<sup>一</sup>无<sup>一</sup>无<sup>一</sup>无<sup>一</sup>无<sup>一</sup>  
 阿<sup>一</sup>阿<sup>一</sup>阿<sup>一</sup>阿<sup>一</sup>阿<sup>一</sup>  
 弥<sup>一</sup>弥<sup>一</sup>弥<sup>一</sup>弥<sup>一</sup>  
 陀<sup>一</sup>陀<sup>一</sup>陀<sup>一</sup>陀<sup>一</sup>  
 仏<sup>一</sup>仏<sup>一</sup>仏<sup>一</sup>仏<sup>一</sup>

光<sup>クワウ</sup>雲<sup>ウン</sup>无<sup>ム</sup>身<sup>シ</sup>如<sup>ニ</sup>虚<sup>コ</sup>空<sup>ク</sup>

一切<sup>イツゼツ</sup>の有<sup>ユ</sup>身<sup>シ</sup>小<sup>コ</sup>さ<sup>サ</sup>る<sup>ル</sup>形<sup>ケイ</sup>

光<sup>クワウ</sup>澤<sup>タク</sup>か<sup>カ</sup>ら<sup>ラ</sup>ぬ<sup>ヌ</sup>もの<sup>モノ</sup>を<sup>ヲ</sup>さ<sup>サ</sup>る<sup>ル</sup>

上<sup>ウエ</sup>難<sup>ナン</sup>思<sup>シ</sup>議<sup>ギ</sup>を<sup>ヲ</sup>歸<sup>キ</sup>命<sup>メイ</sup>せ<sup>セ</sup>よ

三  
 重  
 ● 南<sup>一</sup>无<sup>一</sup>阿<sup>二</sup>弥<sup>一</sup>陀<sup>一</sup>仙<sup>一</sup>  
 ● 南<sup>二</sup>无<sup>一</sup>阿<sup>三</sup>弥<sup>一</sup>陀<sup>三</sup>仙<sup>一</sup>  
 ● 南<sup>一</sup>无<sup>一</sup>阿<sup>二</sup>弥<sup>一</sup>陀<sup>一</sup>仙<sup>三</sup>  
 ● 南<sup>二</sup>无<sup>一</sup>阿<sup>二</sup>弥<sup>一</sup>陀<sup>一</sup>仙<sup>三</sup>

● 南<sup>三</sup>无<sup>一</sup>阿<sup>一</sup>弥<sup>一</sup>陀<sup>三</sup>仙<sup>一</sup>  
 ● 南<sup>一</sup>无<sup>一</sup>阿<sup>一</sup>弥<sup>一</sup>陀<sup>一</sup>仙<sup>一</sup>  
 ● 南<sup>三</sup>无<sup>一</sup>阿<sup>一</sup>弥<sup>一</sup>陀<sup>三</sup>仙<sup>一</sup>  
 ● 南<sup>一</sup>无<sup>一</sup>阿<sup>一</sup>弥<sup>一</sup>陀<sup>一</sup>仙<sup>一</sup>

清淨光明あまらびや

遇斯光のゆゑ形きを

一切の業繫ものぞこまぬ

下 畢竟依を歸命せよ

南	南	南	南
無	無	無	無
阿	阿	阿	阿
弥	弥	弥	弥
陀	陀	陀	陀
仏	仏	仏	仏



佛光照曜寂第一

光炎王佛とあづけたまは

三塗の黒闇ひらくなり

中大應供茂歸命せよ

阿九三

往同平願  
生發等以  
安菩不施此  
樂提行一功  
國心一切諸徳

リ  
シ  
ク

二道光明朗超絶なり

清淨光佛とまうすなり

ひとたび光照かふるりの

中業垢とのぞき解脱なり

慈光んるゆふふむつら

ひうまのらるるむらり

法喜くうごのぶかま

中大安慰は歸命せよ

无明むみやうの闇くらみを破やぶらるゆへ

入いれちこますることすまることすまることすまる

智慧ちゐ光佛くわうぶつとみつけらる

一切いっけつ諸佛しよぶつ三乘さんじやう衆しゆ

上うへどもに嘆なげ響こ志こしまる

光明くわうみやうてらるてたへされを

不斷ふたふた光佛くわうぶつとみつけらる

聞き光力くわうりきのゆへあまを

上うへ心こころ不斷ふたふたにて往ゆき生なまを

佛光測量ふまゆふ

難思光佛とまづひそり

諸佛ハ往生嘆じり

下 弥随の功德を稱せむ

神光の離相とまづひ

无稱光佛とまづひそり

回光成佛のひくりを

中 諸佛の嘆じり

光明月日勝過

超あまのこころをこえり日月光とあづけり

釋迦しやくた嘆なげごとくあまのつらき

上むい无等むとう等とうと下歸命きめいせよ

弥陀よた初會しよゑの聖衆しよじゆハ

筆數ひつじゆのおよぶことぞあら

浄土じやうとと祢ねうらんひよみ

下か廣大會くわうたいゑは歸命きめいせよ

安樂无量の大菩薩

一生補處にりつるあり

普賢の徳に歸してこそ

中穢國にかたきくさ化するを

十方衆生のためにと

如來の法藏あつめてぞ

本願弘誓に歸せしむる

中大心海に歸命せよ

觀音勢至も亦も亦  
慈光世界と照曜  
有縁成度して成り  
下 休息ありふりありあり

如來

安樂淨土にありあり  
五濁惡世におかへり  
釋迦牟尼佛のぞいて  
下 利益衆生にありあり

神カミ力チカラ自ト在ニあリるコト

測ハカ量シさズるコトもナき

不ム思シ議ギのチカラ徳トクとシめらるコト

上ウヘ无ム上ヘ尊ソウ貴キのチカラ命イニせよ

和世丸

安ヤス樂ラク聲コエ聞ク菩ハツ薩サツ衆シュウ

人ヒト天テン智チ慧エをシらふからに

身ミ相ソウ莊ソウ嚴ガンみまおもかす

中ナカ他タ方ハにシ順ジュンども名ナをシらふぬ



顔容端政たぐひま  
精微妙軀非人天  
虛无之身无極體  
上平等力と歸命せよ

和三十

安樂國は孫がみひと  
正定聚にこそ住せり  
邪定不定聚くあまふ  
上諸佛讚嘆たまふ

十方諸有の衆生ハ

阿彌陀至徳の御名ヲ

眞實信心シテ

おなき事所聞を慶喜せん

若不生者のちウヒヤ

信樂まこと信スル

一念慶喜するハ

中往生カスル

安樂佛土の依正を

法藏願力のあせるなり

天上天下にたふひぬ

中大心力を歸命せよ

安樂國土の莊嚴へ

釋迦无碍のみことにて

とくともつれよとのぞきまふ

上无稱佛を歸命せよ

己今當の往生と

この土の衆生のと

十方佛土より

上無量無數不可計あり

阿彌陀佛の御名と

歡喜讚仰せしむ

功徳の寶茲具足して

下一念大利無上なり

たともひ大千世界ふ

みてもらん火さもさよら由きて

佛の御名がきくいとふ

まがく不退ふかきふあり

四世

神力无極の阿弥随ハ

无量の諸佛やめたまふ

東方恒沙の佛國より

中无数の菩薩ゆびくまふ

夜初御

五十六億七千萬

彌勒菩薩ハトトヘン

まことの信心するひと

このまことなるひと

念佛往生の願により

等正覺にいたるひと

まことなる彌勒におまじくて

大般涅槃なるひと

眞實信心しんじつしんをたもつたまへるゆへん

ととかんのち定ぢやう聚じゆふふ入にぬまさまばま

補ふ處この彌勤きんにおるまどまとと

无む上じやう覺かくをさらしめる形かたちあり

和州九

像さう法ぽうのとらの智ち人にんもも

自じ力りきにし諸しよ教きやうとしおまさまてて

時じ機き相さう應おうのは法ぽうをたもつたまへる

念ねん佛ぶつ門もんにぞりりたままま

彌陀の尊號とちんてん

信樂まことけうのむとふ

憶念の心は祢よしと

佛恩報ぶるおのひあり

五濁惡世の有情の

選擇本願信よとまじ

不可稱不可説不可思議の

功德の行者は身ふみてる



● 本師龍樹菩薩ハ

智度十住毘婆娑等

はくアまでおるく西とほめ

さして笑て念佛せしめり

南天竺に比立あらん

龍樹菩薩とあはれん

有無の邪見と破まじと

世尊ハう承てさしめり

本師龍樹菩薩ハ

大乘無上の法とて

觀喜地と證して

念佛とめる

龍樹大士世の

難行易行の道

流轉廻の

弘誓の

本師龍樹菩薩の  
おしとくをきくこと  
本願心にけりめて  
は糸又弥陀と稱とべし

不退けりあはれ  
多んとおもひん  
恭敬の心に執持し  
弥陀の名號稱とべし

御 日 中

● 南无阿弥陀佛の廻向の

恩徳廣大不思議

往相廻向乃利益に

還相廻向亦廻入せり

往相廻向の大慈

還相廻向は大悲なり

如来乃廻向おくりせば

浄土の菩提へいそせ

和 聖 集

弥陀觀音大勢至

大願のまゝに小乘しとぞ

生死たうみはくをば

有情はよやくとのせま

和四十五

弥陀大悲の誓願は

かく信せんといふみあ

糸てまゝあてもへだて

南无阿弥陀佛とて

他方たうにま信ま心んするるひま我が

ううああままひひおおああままひひううららんんがが

ささままんんちちりりううらら親しん友ゆうをを

教けう王おう世せ尊そんハハるるめめたたままふふ

和開六

如にょ來らい大だい悲ひのの恩おん德とくハハ

身み以い粉こなににててもも報ほうををしし

師し王おう知ち識しき乃の恩おん德とくもも

ああままととううららんんもも謝しゃととすす

改悔文

とらるくの難行難修自  
力にたれどあつとて一心に  
所弥陀如来我等が今度  
乃一大事の後生御  
候へとたれとらるし候

世

たのむ一念のた往生一定  
御助け治定とせんしとたえ  
の称名ハ御恩報謝とぞん  
とらる候との御と  
とらる候との御と  
御開山聖人御出世此御恩

次第相兼の善知識の御勤化御恩あり候  
 候御おまきりて一期哉かきり  
 まりのこと候

末代无智の在家止住の男女たらん  
 佛の御勤化御恩あり候  
 衆生の罪業の深重なり  
 如来の御恩あり候



一、念佛往生の誓願  
決定せん  
願  
稱念念佛念佛  
稱名念佛念佛  
それハ万法法法藏法法藏  
後世後後世

文四九

文四九  
念佛念佛念佛  
念入道念念入道  
後世後後世  
當流當當流  
聖教聖聖教  
念の信念念の信  
事事事

聖人の御ことばも一切は男女たゞしん身  
弥陀は本願と信せんくはんては  
とすもたうんてはあまの  
ゆへふらなる女人もあつては  
雑行とて一念弥陀如来今度の  
後生たまはれたるまじりたのみ申せん

十

人八十人も百人もあつても  
に往生とては事なりんては  
〜のたうあまか〜

夫在家は尼女房たゞん身はあまの  
もねく一心一向小阿弥陀佛とては



かたむかふる時ある是かたむかふる阿彌陀如來  
と申奉るの諸佛をまごれて十惡五逆の  
罪人なるはなまじけなるは大願をもと  
ましく阿彌陀佛とあり給へりこれ  
佛とありたのて一念佛をまげ候へと申  
さん衆生はなまじけなるは正覺なる

ちかいまも阿彌陀佛とあり給へり此  
樂に往生せんといふ要なるはなまじけ  
ゆへに阿彌陀佛とあり給へり此  
とあり候はなまじけなるは正覺なる  
罪のあつた事なるはなまじけなるは  
はなまじけ一念の信なるはなまじけなる

八十人八十人百人も百人も  
争まは住生さる事なむ  
こめりふらたてくたうも  
らん心のおらむとて  
くときもいふ所  
念佛申すこと  
佛恩報謝の

文五十三

念佛と申ぬりあるなり  
信心獲得とて第六の願  
あるの願とあり  
あるの願とあり  
命する一念とあり  
發願廻向とあり

あましくして思はざるから弥陀如来せん夫不  
廻向まがむ一ままばばああららななりりこれと大經  
ハ令諸衆生功德成就あまとてとひひどどももんんん  
无始以來いははくくつつくるくる惡業煩惱あららむむんんんん  
ろろくくろろももななくく願力不思議あららむむんんんん  
滅めつつるるややままららむむゆゆ亦正定聚不退あららむむんんんん

の不住ぢゆうままととああららむむんんんん煩悩ぼんごうとと断たんんぞぞ  
ままとと涅槃ねはんななららむむんんんん此義こゝのぎ  
ハ當流一途たうりゅういつとの前談ぜんだんするするゆゆたたりり他流たいうのの不  
對たいしてしてかかれれどど沙汰さたあるあるべべししまるまる可かなりなり  
能よくくままららむむんんんんののああららむむんんんんととくく

聖人一流の御勸化はあのみまの信心は  
りて本とせしき候その由はあつての  
雑行をあけしめて一心は弥陀に歸命を  
まふ不思議の願力とて佛の  
より往生の治定せしめたるその心を  
一念發起入正定之聚とも釋しあはれ

称名念佛ハ如來より往生せしめたる  
御恩報盡の念佛とてあつて  
あふりし

抑當流の他力信心はあつても聴  
聞して決定せしめたる人のあつて信心の





ありとくちろくべきものの歌うらまきしんく

文明六年二月十七日書之

抑おさ毎月毎月兩度二回乃すなは寄合あひあひの由來ゆゑハあるの  
ためぞといふよさくは他たのいふあはれ  
自身みづか比ひ往生おぼ極樂ごくらく乃すなは信心しんじん獲得くわくの

文五十七

と見ゆるがゆへありとくちろく往生おぼより  
しまおらするまなも毎月毎月の寄合あひあひと  
しよんまのさびくはもてまのいさく  
どもさしふ信心しんじんの沙汰さたとてらからく  
もてこれあしとまお述しゆ年ねんのつりやも  
寄合あひあひのどとてかた酒さけ飯い茶ちや煎せんと

むらりてみましく退散せしむ  
佛法此本意也志うんばくしなる次第  
ありいらも不信心の面く一段の  
よなて信心此有無と沙汰まじ  
とてあふる所の所詮もあく退散せしむ  
茶あるべかといおちもえんべうなしく

支那

思案とやごころにたことあり所詮  
自今已後よといふ不信心の面あり  
たうし又信心此讚嘆あるべしと  
要あり  
てき當流の安心此ともむらり  
あまらふこが身の罪障のあらふ

とゞびきとあぐくの雑行のころぞ  
わ先く一心に阿彌陀如来に歸命して  
今度の一大事此後生たるといふことを  
あぐたのまん衆生とてあぐくはあみ  
たまふたこととていふこととてあみ  
くびかたれとていふこととてあみ

文筆

まことお百即百生あぐくはあみ  
にも毎月の寄合あぐくはあみ  
謝徳のたふとていふこととてあみ  
信心と具足せめとていふこととてあみ  
てたものなりとていふこととてあみ

明應七年二月廿五日書之

毎月兩度講衆中へ

八十四歳

夫人間の浮生る相とつらく觀望に  
お不よそと云ふあ死りのこの世の姑中終  
後浮居のどくぬ一期ありまればい

文六

万歳の人身がらうけつていり入事とまらず  
一生はつたやぬーさあやふまうと  
なまう百年は形骸たのめいんや我か  
まじ人やたあいつくもあまのあま  
あま後たあつたあまあまあま  
とくろ露よふもあまあまあま

朝あさの紅こう顔がんありて文ふみの白しろ骨こつなる  
身みちうとやふ无常むじやうの風かぜさうのぬる  
とまひちうふんどのまふこたうまらふむら  
むとひらのたぬぐたえぬまら紅こう顔がんなる  
あく變かへしと桃もも木きはなをむらうと  
ぬるとは六む親しん眷けん属ぞくありまらとあな

かまきあても夏なつふその甲か斐ひあつた  
さくもむらむら事ことめぬむら野外やうげ  
ふとちの夜よ半はんたけうとあ  
ぬるたを白しろ骨こつのたれまらむら  
中なかくさむらむら人間にんげんのむら  
事ことの老ろう少しょう不ふ定ていのむらむらあ人ひと

とや後生の二大事は心よかき阿弥  
陀佛と云うたのこそいふて念  
佛はうすぎをたれあつあまうもく

抑當國攝州東成郡生玉の庄内  
大坂といふ在所の往古よりある

約束のつりけるやと成る明應第五の  
秋下旬はあつうらつとあまうこの  
在所をみてあまうのまじりたて  
一字の坊舎を建立せしむ當年のや  
とてお三年れ歳霜とていふまじり  
すまうち在昔の宿縁をいふる目縁

形りとおぼやくをんごのぬそれみりてこの  
在所ざいしょ居住きよぶせしむる根元こんげんのあぢち生  
涯えんとあつろやましくまじまじ榮花えいけ榮耀えいぎょう成  
てはたまふ花鳥風月けんりゅうふうげつももころりてよき  
あえれ無上むじやう菩提ぼだいのたぢあぢ信心しんじん決定けつぎの  
行者ぎやうじやも繁昌はんじやうせしめ念佛ねんぶつとままらうさん

おもづいも出来できせしむるあぢちのあぢち  
ありし一念一念せしむるあぢちのあぢちあり  
まじりて世間せけんの人ちんばも偏執へんしつの  
あぢちのあぢちの題目だいめいあぢち  
出来できあぢちのあぢちのあぢちのあぢち  
よひて執心しつしんのあぢちのあぢちのあぢち

よのちりこれよりてりゆく貴職道徳と  
あしきもの金剛堅固の信心と決定せしめ  
あさましく弥陀如來は本願のわひひくめし  
別して人の御本意のたかくあはれ  
よのちりこれよりてりゆく貴職道徳と  
あしきもの金剛堅固の信心と決定せしめ  
あさましく弥陀如來は本願のわひひくめし  
別して人の御本意のたかくあはれ  
よのちりこれよりてりゆく貴職道徳と  
あしきもの金剛堅固の信心と決定せしめ  
あさましく弥陀如來は本願のわひひくめし  
別して人の御本意のたかくあはれ

まてふ當流法義にもあはれ人教れ  
あしき本望のいふあはれ人教れ  
よのちりこれよりてりゆく貴職道徳と  
あしきもの金剛堅固の信心と決定せしめ  
あさましく弥陀如來は本願のわひひくめし  
別して人の御本意のたかくあはれ  
よのちりこれよりてりゆく貴職道徳と  
あしきもの金剛堅固の信心と決定せしめ  
あさましく弥陀如來は本願のわひひくめし  
別して人の御本意のたかくあはれ





明治三十一年三月廿音出版御届

原板人

京都寺町通松原南人

文正堂 藤井卯兵衛

岐阜縣平民

反刻人

林文助

厚見郡上知納村十番地

